

2024年3月期第4四半期決算 Web 会議 議事録 主な Q&A

日時：2024年5月10日 金曜日 18:30～19:30

Q1. 加工事業本部の今期の計画について

A1. 前期から発現している商品ミックスの改善や改善活動等は今期も継続して発現する一方で、労務費や物流費は前年と比較し増加する見込みである。原材料価格は一定の環境変化を織り込んだが、下期以降に想定以上の外部環境変化があれば、価格改定等の様々な施策を駆使し利益を確保する。

また、今期より加工事業本部の利益増減の内訳を変更し、損益計算書に基づき売上原価・利益・経費に分類した。

Q2. 食肉事業本部の前期の実績と今期の計画について

A2. 輸入食肉事業において制度会計上の棚卸資産や外貨契約に対する低価法による評価損が4Qで約10億円発生したことで見込みを下回ったが、通期では食肉の販売トレンドは変わらず順調に推移した。今期の計画については、下期以降の飼料価格で為替を注視する必要があるが、自助努力も含めて飼料コストの低減を図る。

Q3. 海外事業本部の豪州事業の4Q事業環境と今期の計画について

A3. 4Qは牛の生体価格の上昇やワーカー不足により処理頭数が増えなかったため計画を下回った。現在は生体価格も下落し、仕入れ環境は好転している。ワーカー不足も徐々に回復しており生産体制も戻りつつある。販売においては、米国産の供給不足や高値により豪州産牛肉の引き合いは強い。また、日本向けの新ブランド「大麦牛 ANGUS」の拡販等もあり今期は利益を拡大させていきたい。

Q4. 今期の事業利益計画480億円について

A4. 国内外の外部環境は大きく好転しておらず、慎重に見積もった計画である。リスク要因としては、為替や輸入価格の高騰に拍車がかかっている点あげられる。特に北米産の牛肉と豚肉が高騰している。海外からの調達が多様化や国内での価格改定・価格転嫁を進め、外部環境の悪化を吸収し計画を達成させる。

Q5. 今期の当期利益減益計画について

A5. その他収益・費用において、主に加工事業で固定資産の減損損失が50億円程度発生する点が影響している。

Q6. 次期中計の設備投資について

A6. 次期中計の設備投資は以前の発信と変わらず1,500億円程度を見込んでいる。今期は前年比で188億円増加し630億円となるが、2年目以降は抑制される。詳細は中期経営計画2026説明会で改めて説明する。

以上